

梅津川里 渡○中松の尾よりは東なり、此川舟渡し、

〔萬葉集十秋雜歌〕七夕

天漢水左閉而照舟竟、舟人妹等所見寸哉、

〔夫木和歌抄渡二十六〕

霧ふかきこがのわたりのわたしもりきしのふなつき思ひさだめよ

西行上人

行家

綱渡

〔新撰六帖三〕河

はや河のせぎりあやうき舟わたりそがひにむかへ道とほくとも

〔倭訓栞都編十五〕つなわたし兩岸に綱を亘し船を通はすを云駿州富士川播州西の川などの如し楊升菴も立兩舷兩岸中以繩組之循繩而渡といへり、

〔松葉名所和歌集十不〕船岡渡

舟岡のとほき渡に子日してつなに野べの松や引らん

二條院

〔梅花無盡藏三上〕戊申○中十一日出柿崎大半濱路黒井中濱之間有河兩岸插柱張大綱渡者皆轉手而遣舟號曰轉舟、

兩岸立株張大綱大綱轉手遣舟忙便於用楫誰資始時有歸鶴笑似裝

〔伊勢參宮名所圖會五〕三津浦又三津の入江舟わたし有爰を引舟のわたしといふ俗にくり舟の方にあり、

〔尾張名所圖會後編六〕入鹿拷船

つるくと秋のいそぎやたぐり船

〔播州名所巡覽圖會五〕龍野川鎮城の東

川上は宍粟郡に流を合せて、龍野を經て海に達す綱渡あり、

五條坊